

特許紹介

第26巻第4號 昭和15年4月

振動運動の發生装置

(特許第133603號
特許権者 フレデリック・ジュールスピロト)

此の装置はコンクリート振動機等に適用するものであつて、任意の強さの振動を發生し得るやうに設計した

圖-1.

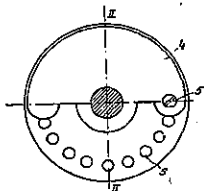
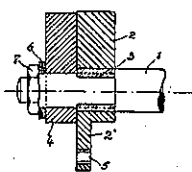
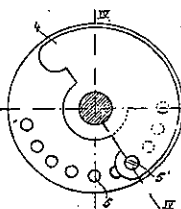


圖-2.



ものである。即ち同一軸(1)に2個の偏心塊(2),(4)を取付け内偏心塊(2)は其の軸に楔止し、外偏心塊(4)は半圓筒形で内偏心塊(2)と對角變位する事ができるやうにしたものである。(圖-1, 2, 3)。

圖-3.

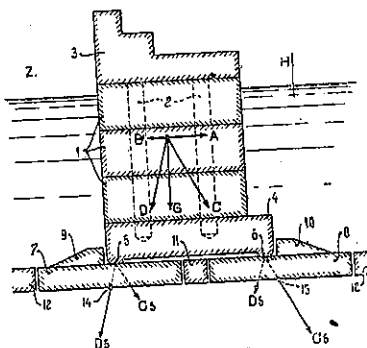


堅壁を有する防波堤の如き構造物の防壁

(特許第133605號
特許権者 ヘルマン・ストリーフェルグ)

此の發明は堅壁を有する防波堤の如き構造物に於て其の防壁が横方向に搖動することなく従つて沈下破損の危険なきやう工夫したもので、即ち圖-4に見る如く、基礎は横

圖-4.



断面について見る時、上部構造物の各先端に對し1枚宛都合2枚の板(7),(8)より成り、夫等の板が波靜かなる時も防波堤の兩側に及ぼす水壓が最大なる時にも大體中心的に負荷せられるやう唯2點(5)

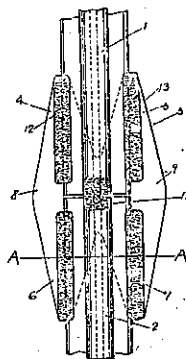
(6)に於て上部構造物に接するやう設計したものである。

軌條の熔接々手

(特許第133620號
發明者 モーリス・ミシヨ)

此の發明は、軌條の接合部に於て軌底に熔接すべきベッドプレート(3)は軌條の接合線の前後に於て若干距離

圖-5.



を距た個所を始點とし、兩端に至るに従ひ漸次断面積を縮少するやうにした各1對の舌狀片(4),(5)及(6),(7)を1體に結合して構成し、軌底の兩側縁を之に對應せる舌狀片上に設置して熔接するやうにし且つ軌條を其の接合に際し衝合せた時垂直面より成る1雙の溝形狀切截部が軌頭部(15)に就て對向するやうに各軌條の軌頭を削整するものである(圖-5)。之れに依れば

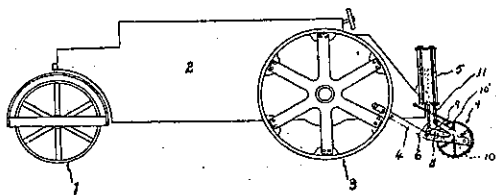
ベッドプレートに形成した舌狀片の特殊形狀はプレートの横断面の慣性を極めて除々に變化せしめて之に弾力性を附與する事となり、熔接部の横方向の收縮により生ずる應力を其の兩端に於て消滅せしめて以て其の收縮に追従せしめ得る堅固な接手を得る事ができ、又溝狀切截部に依り2人の作業者が同時に作業を施行することが許される故に作業能率を増進することができる。

道路輾壓機

(特許第137643號
特許権者 發明者、不明)

此の輾壓機は3輪道路輾壓機の後輪の後方に幅廣くして小徑の輾輪を所要に應じ隨意下壓弛緩し得るやうに設けたもので、之に依り道路輾壓機が地盤の輾壓作用

圖-6.



と鋪装面の輾壓作用とを兼ね行ふ事ができる利點がある(圖-6)。

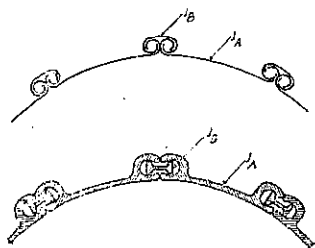
錐形コンクリート杭築造用外管

(特許第 133743 號
特許權者(發明者) 村田健次郎)

此の杭築造用外管はコンクリート充填後容易に引抜き得るやうに設計したもので、圖-7 に見るやうに、橢圓の I 部を切断

圖-7.

した形状又は工字形等の断面を有し且つ兩縁平行な補助殻(1B)と、兩側縦縁に特殊断面の凹溝を有する梯形殻(1A)とを互に連繫し、各接合部が横方向には互に離脱しないやうに齧合せ又は抱合せたものである。

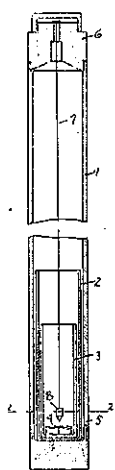


試錐坑測定装置

(特許第 133783 號
特許權者(發明者) 長谷川作太郎)

此の發明は、試錐坑に打込んだ鋼管(1)の下端に有底管(2)を沈下し其の内部に更に有底硝子管(3)を沈下し、硝子管の底には磁針を露出した磁石(5)を装置し、其の直上に試錐孔直上より重錘(8)を垂下し、其の重錘と磁石とが硝子管内に盛られたゼラチン類に依り適當時間を経て固結するやうにしたもので、固結後は硝子管を引上げ磁石上の目盛に依り坑底の偏倚度及偏倚方向を測定するのである(圖-8)。

圖-8.



水硬性結合材の製法

(特許第 133906 號
特許權者(發明者) ツヤン、ツヨゼフ、アンドリツク)

此の方法は、モルタル又はコンクリートが硬化乾燥するに従ひ收縮する傾向を有し従つて不利益なる影響(龜裂等)を惹起するを以て、かゝる傾向を抑制し得る如きセメントの製造を企圖したのである。而して其の方法は、基礎的セメントの收縮割合に等しいか或はそれ

よりも大なる如き漸進的膨脹作用を呈してセメントの收縮を補償するやうに、豫め焼成法によつて結合せしめられた無水のスルフォアルミニート、セメントを主成分とするセメントを或適當量添加するのであるが、前記のスルフォアルミニートはポルトランドセメントのアルミニートと結合して膨脹性ある水化物を生成して上記の目的を達成するのである。

セメント急強剤

(特許第 133926 號
特許權者(發明者) 岡野道中)

矽酸石灰に吸收吸着力強く而も石灰と化合し易き珪酸を多量に含有する珪酸質物(福島縣安積郡多田野村等に産出する石英粗面岩天然分解物)の微粉末を配合したものである。

枝管接續用突起形成型

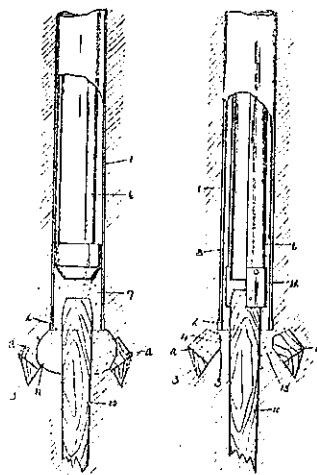
(特許第 133970 號
特許權者(發明者) 小笠原常五)

合成杭埋築方法の改良

此の方法は(I)切目其の他に依つて割れ易くした木栓(3)を下端に嵌合して外管(1)を地層中に打込み、(II)外管内底にモルタルを適當量注入して漏水止モルタル層(13)を構成し(III)外管内に之より小徑の木杭(9)を挿入し其の上端に心管(6)の下端を嵌合し打撃等に依り上記のモルタル層を貫通し且つ木栓(3)を割截してモルタルの一部分を外

圖-9.

部に溢せしめると共に杭を地層中に打込みたる後(IV)心管内からコンクリートを供給して木杭及モルタル層上にコンクリート杭を接合構成せしめる方法で従来の此種方法に於ける如き特殊の填隙装置を施す必要のない特長がある(圖-9)。



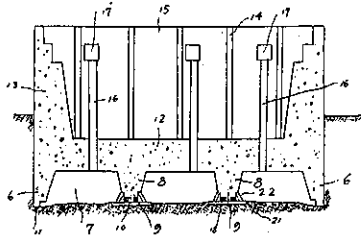
潜函工法による船渠築造法

(特許第 134023 號
特許権者 (發明者) 白石多士良)

此の方法は、船渠の底部をフラットスラブの構造とし、實體形なる大寸法の儘地上に於て構築し側壁も或程度迄構築し之を潜函工法により所定の位置に沈降せしめる方法の改良である。即ち船渠部分を數個の潜函に分割し、各潜函

には端部双口
の他に中央部
の縦方向又は
縦横方向に於
ても端部双口
よりも短い中
間双口 (8) を
設け、之には

圖-10.



胴木用水平段狀部と支柱用傾斜段狀部を形成せしめて之等段狀部には胴木 (18) 及横木 (21) 竝に支柱 (22) を着脱するやうにし、以て耐荷面積を隨時適當に變更し得るやうにしたものである (圖-10)。

(附) 登録實用新案

水道給水栓

(第 277169 號 公告 14 年第 10369 號
實用新案権者 南方寅次郎)

通水管を硝子製とし其の上下兩端を特殊接合劑を以て接着したものである。

軌道用枕木

(第 275978 號 公告 14 年第 10181 號
實用新案権者 近藤乾一)

枕木の主體を鐵筋コンクリート製とし其の兩端軌條受壓面に木部材を添加し兩部材を組合せ一體となしたるもの。